

酒類・食品 & News 解説

週刊

令和7年4月4日(金曜日) 第3440号

(昭和42年7月10日第3種郵便物認可)

毎週金曜日 発行 編集発行人 石母田 健

購読料 6ヵ月 15,730円(税込み)

振替番号 東京4-71739

発行所 株式会社 日刊経済通信社

本社 東京都中央区日本橋小伝馬町10番11号 日本橋川ビル9階

☎03(5847)6611代 FAX 03(5847)6600

名古屋支局 ☎052(253)6924 大阪支局 ☎06(6353)1791

http://www.nikkankeizai.co.jp/

大阪・関西万博、13日から開幕

テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」



提供：2025年日本国際博覧会協会



ぜんぶのいのちと、
ワクワクする未来へ。

開催期間 2025年4月13日(日) - 10月13日(月)

開催場所 大阪 夢洲(ゆめしま)

2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)が4月13日(日)から10月13日(月)までの184日間、大阪・夢洲で開催。想定来場者数は約2820万人を見込んでいる。

開催テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。「いのち」をテーマに掲げる万博として、世界が一つの「場」に集う機会を提供。この万博を契機として世界の多様な価値観が交流しあい、新たなつながりや創造を促進し、世界的な危機を乗り越え、一人一人のいのちを守り、いのちの在り方、生き方を見つめ直すことで、未来への希望を世界に示す万博を目指す。

大阪万博は1970年に日本、またアジアで最初に開催された万博となり、2025年大阪・関西万博は、20年ぶりに日本で開催される国際博覧会となる。酒類食品関連企業も国内パビリオン、民間パビリオン、海外パビリオンなどに展示し、バラエティに富んだ展示企画を展開するなど、多くの知恵や技術が結集した博覧会となっている。

主な出展メーカーの取り組みを紹介したい。

森永乳業は大阪ヘルス

大阪・関西万博特集1〜6面(森永乳業、六甲バター、タマノイ酢、サンクト、リアル、とタンキリン工業)

アパビリオンで「ビフィズス菌」をテーマにブースを出展。六甲バターは、大阪ヘルスケアパビリオン内の「ミライの食と文化ゾーン」に植物性素材のみを使用したメニューを提供する「QBB」これもいいキッチン」を出展。タマノイ酢は、4月13日〜5月12日まで、ORA外食パビリオン「宴」UTAGE」に出展。「伝統と革新」などをテーマに、シカゴ万博(1893年)で名誉金牌受賞の商品を復刻した純米酢「名譽金牌」を使用したメニューなどを提供する。国分グループは、ORA外食パビリオン「宴」UTAGE」に協賛出展。ニチレイフーズは、1970年の大阪・関西万博で出展した際の「テラスニチレイ」を今回も採用。飲料系では、コカ・コーラシステムが、世界初となる水素カートリッジを使用した自動販売機を設置(富士電機と共同)するほか、EX

POナショナルホール「レイガールデン」にラウンジ&ダイニングを出店(ロイヤルホールディングスと共同)。サントリীগруппは、海と空に開かれたエリア「ウォータープラザ西棟」に飲食店3店舗を出店。伊藤園は、テーマ事業「いのちを高める」にパートナーとして協賛。大塚製薬は、シグネチャーパビリオンのテーマ事業「いのちを響き合わせる」にシルバートナリーとして協賛。アサヒグループは、アト万博の一つである「静けさの森インスタレーション」にゴールドパートナーとして参画。ローソンは、会場内のカフェ店舗「ローソンのカフェ大阪・関西万博」および隣接するコンビニ店舗「ローソン大阪・関西万博」で特別商品やサービスを提供。このほか、大阪・関西万博公式ライセンス商品を、菊正宗酒造や小西酒造など他数社が展開。

カゴメロック・フイ、スィー焼きおにぎり」増勢、ブランドベス発表会、日清「完全メシ」大会、北海道研究会、各協会、開館展示会、原料商品情報

8面 11面 9面 13面 15面 12面

独自の調査による統計・レポートづくりを通じて50余年。今後も酒類食品業界をデータとして記録し続けます。

●B5判雑誌形式。毎月月末発行
●有力企業広告も掲載
●購読料 6ヵ月24,750円(税込み)

●A4判速報形式
●有力企業広告も掲載
●購読料 6ヵ月45,100円(税込み)



日刊食品通信

業界唯一の酒類食品総合日刊紙。多忙の時はヘッドラインをお読み下さい。本文も簡潔、明瞭です。

日刊経済通信社の刊行物

酒類食品統計月報

酒類食品統計月報

